

屋内消火栓操法競技要領

1 目 的

屋内消火栓の基本的な取り扱いと操作技術の基準を定め、災害発生時に活用できる技術を身につけ効果的な自衛消防活動を推進することを目的とする。

2 用語の意義

この屋内消火栓操法で使用する用語の意義は、次の各号による。

- (1) 前後左右とは、ホースを延長する方向を基準とする。
- (2) 待機線とは、操法開始前に集合する位置をいう。
- (3) 集合線とは、操作の前後に操作員を集合させる位置をいう。
- (4) 想定とは、消火栓前方の標的をいう。
- (5) 第一ホース、第二ホースとは、消火栓箱内の放水口に結合されたホースを第一ホース、第一ホースに結合されたホースを第二ホースという。
- (6) 第一結合、第二結合、筒先結合とは、放水口と第一ホースの結合を第一結合、第一ホースと第二ホースの結合を第二結合、ホースと筒先の結合を筒先結合という。
- (7) 操作員とは、この操法を行う指揮者以外のものをいう。
- (8) 定位とは、指揮者が操作始めの号令及び収納時の監視等を行う位置をいい、集合線上の1番員と2番員の間（中間）から前方約5mの地点とする。

3 操法の要員

操法は、3人操法とする。

4 使用ホース

この操法において使用するホースは、40mm×15mとし、ホース本数は、2本とする。

5 操法実施上の留意事項

- (1) 操法は、安全、確実を旨とすること。
- (2) 消火栓の構造及び機能を熟知すること。
- (3) 各呼称は、明瞭に唱え動作はすべてかけ足とし、操作及び動作の区切りは、特に節度正しく行うこと。
- (4) 器具は、ていねいに取扱うこと。
- (5) 事故防止に留意すること。
- (6) 指揮者は、号令を明瞭に唱え、指示は、簡明適切に行うこと。

— 操 法 —

集 合

- 1 指揮者（1番員の概ね1.5 m右の位置）と操作員は待機線上で整列し、整列休めの姿勢で待機する。
- 2 指揮者は、審査員の赤旗による合図を受けたのち左足を引き付け基本の姿勢をとり「集れ」と号令し、操作員は、指揮者の「集れ」の号令で左足を引き付け基本の姿勢をとり「よし」と呼称する。指揮者と操作員は集合線上で整列し整列休めの姿勢をとる。

任 務 分 担

- 1 指揮者は、一旦基本の姿勢をとり、半ば左向け左を行い、指揮者の定位にて左向け止まれの要領で停止し、姿勢を正して「気をつけ」と号令し続いて「番号」と号令する。
- 2 各操作員は、1番員から順次番号を呼称する。

開 始 報 告

指揮者は、定位で廻れ右を行い、総合審査員に相対し「ただ今から○
○自衛消防隊屋内消火栓操法を行います」と報告した後、廻れ右をし、基本の姿勢をとる。

機 器 の 配 置

別図参照

操 法 の 開 始

1 指揮者

指揮者は、開始報告後、各操作員に相対したのち、「操作始め」と号令し、操作員の操作状況を監視しながら想定火点に先行して1番員のホース延長終了直前に「止まれ」と号令し、1番員の概ね斜め右前方3 mの位置で停止し、操法を監視しながら2番員の「よし」の呼称で直ちに火点に向きをかえ監視する。

2 1 番員

1 番員は指揮者の号令で「よし」と呼称し、消火栓扉が開くのを待って筒先と第二ホース及び第一ホースの一部をとり出して、筒先及び第二ホースをかかえ 2 番員の「よし」の呼称で想定火点に前進し、第一ホースを延長した時点で第二ホースをその場に置き「放水始め」と呼称し、指揮者の「止まれ」の号令で左足を踏みだし、余裕ホースをとり注水姿勢をとる。

3 2 番員

- (1) 2 番員は指揮者の号令で「よし」と呼称し、地区発信機を押したのち、消火栓扉を開き 1 番員のホース取り出しを待ってホース内側に入って余裕ホースを腰にとり「よし」と呼称し、ひっぱりを防止する。
- (2) 1 番員の「放水始め」を復唱したのち、開閉弁を全開し、起動ボタンを押して「よし」と呼称、ホースを右に見て点検しながら前進する。1 番員の直近でホースをまたぎ、1 番員の右側一步後方に至りホースを持って「よし」と呼称し注水操作を補助する。

送水停止

1 指揮者

標的が落ち、審査員が赤旗をあげたのを確認したのち、1 番員の方向に向きを変え、姿勢を正し、「放水やめ」と号令し、操作状況を監視する。2 番員の「停水操作完了」に対する 1 番員の「よし」の呼称で火点方向に向きを変える。

2 1 番員

指揮者の「放水やめ」の号令で基本注水姿勢のまま「放水やめ」を復唱し、2 番員の「停水操作完了」の呼称で「よし」と呼称、左足を右足に引きつけ、筒先先端を右手に持ち姿勢を正す。

3 2 番員

1 番員の「放水やめ」の復唱により「よし」と呼称してホースをはなし、後方に向きを変えホースを右に見て消火栓に至り開閉弁をしめたのち、元の位置にもどり、基本の姿勢で停止して「停水操作完了」と呼称する。

収 納

1 指揮者

- (1) 審査員の合図を受けたのち、1 番員の方向に向きを変え、姿勢を

正し「筒先位置につけ」と号令し、筒先の斜め右前方 3 m の位置に進み、火点に向かって姿勢を正す。

(2) 審査員の赤旗による合図を受けたのち、1 番員の方に向きを変え姿勢を正し「おさめ」と号令する。

(3) 「おさめ」の号令後、1 番員が筒先を離脱したのち、1 番員より筒先を両手で受けとり確認の「よし」と呼称し右脇にかかえ、消火栓箱前（別図参照）に収納し、第一結合部を離脱したのち消火栓扉を閉め、2 番員と協力してホースを移動する。

定位で隊員の収納操作を監視し、最終隊員が通過したのち、ただちに隊員の方に向きを変える。

2 1 番員

(1) 指揮者の「筒先位置につけ」の号令で「よし」と呼称し、かけ足で筒先位置に至り、筒先先端を右手で持ち、火点に向かって姿勢を正す。

(2) 指揮者の「おさめ」の号令で「よし」と呼称したのち、右足でホースをまたぎ、左足でおす金具のつけ根をおさえ、筒先をホースから離脱し、両手で指揮者に渡し、「よし」と呼称する。

続いて、第二ホースのおす金具から巻島田にして右脇にかかえ、ホースをおりひざで消火栓前におき点検したのち、集合線に戻って服装点検を行い基本の姿勢をとる。

3 2 番員

(1) 指揮者の「筒先位置につけ」の号令で「よし」と呼称し、かけ足で注水補助位置に進み火点に向かって姿勢を正す。

(2) 指揮者の「おさめ」の号令で「よし」と呼称したのち、廻れ右をして、第二結合部に至り、第一ホースのおす金具のつけ根を左足先でおさえ、両手で結合を離脱し、指揮者と協力してホースを移動したのち、おす金具から巻島田にして右脇にかかえ、ホースをおりひざで消火栓前におき、点検したのち集合線に戻って、服装点検を行い基本の姿勢をとる。

点検報告

1 指揮者は、各操作員が集合線に整列したのち、自らの服装点検を行い基本の姿勢をとった後「点検報告」と号令する。

2 指揮者は、各操作員の点検報告に対し「よし」と呼称して受ける。

3 各操作員は、1 番員から指揮者に対し、順次基本の姿勢のまま「○番員異状なし」と報告する。

終了報告

指揮者は、定位で廻れ右を行い各ブロックの総合審査員に相対し「○
○自衛消防隊屋内消火栓操法を終わりました」と報告し、廻れ右をして、
姿勢を正す。

退 場

- 1 指揮者は、終了報告後、各操作員に相対した後、基本の姿勢のまま、
「右向け右」「かけ足」と号令し、1番員のおおむね1.5 m前方の位
置で「進め」と号令を行い、かけ足で退場する。
- 2 各操作員は、指揮者の「右向け右」の号令で「よし」と呼称し、右向
け右を行い「かけ足」の号令で両手を腰にあげ「進め」の号令で退場
する。